

反復と偶然展

Repetition and Contingency in Crafts and Design

Repetition
and
Contingency
in Crafts and Design

小笠原
Shigeru Matsuda 小笠原の紙の箱 K1, K2, K3
©2015 Shigeru Matsuda

反

偶

2024
2月24日
月休

12月17日
火

然
展

復
と

December 17, 2024 » February 24, 2025

9:30 - 17:30 Admission until 30 minutes before closing.

Closed: Mondays (except January 13 and February 24), December 25 - January 1, January 14

Admission - Adults 300 (250 yen, College and University students 150 (70 yen

Organizer - National Crafts Museum

*The price in brackets is for the group of 20 persons or more and discount coupon holders.

*All prices include tax. *Admission is free for high school students, under 10, seniors 65 and over,
and those with Disability Certificate and/or caregiver accompanying with them.

MOMAT主催・スポンサー株式会社東洋グループ、タジリアグループ、
株式会社三井住友銀行、三菱商事株式会社、大日本印刷株式会社、
アール・ペーパー、株式会社サカイ、日本電子情報通信
〒020-0963 石川県金沢市御幸町 3-2
050-5541-6000 (代表)

3-2 Dewa machi, Kanazawa shi, Ishikawa 920-0963

info@momat.jp 12/10 - 2/24 09:00

国立工芸館
National Crafts Museum

for more information

<https://www.momat.go.jp/craft-museum>

会 期：2024年12月17日(火)～ 2025年2月24日(月・休)

開館時間：午前9時30分～午後5時30分 ※入館は閉館の30分前まで

休館日：月曜日（ただし1月13日、2月24日は開館）、年末年始（12月28日～1月1日）、1月14日

観覧料：一般 300円(250円)／大学生 150円(70円)

* ()内は20名以上の団体料金および割引料金。

*いずれも消費税込。

* 高校生以下および18歳未満、65歳以上、MOMATパスポート・学パスをお持ちの方、友の会・賛助会員の方、MOMAT支援サークルパートナー企業（同伴者1名まで、シルバーパートナーは本人のみ）、キャンパスメンバーズ、文化の森おでかけパス（一般のみ）をお持ちの方、障害者手帳をお持ちの方と付添者（1名）は無料。

*割引対象：石川県立美術館・金沢21世紀美術館・石川県立歴史博物館・石川県立伝統産業工芸館(しかわ生活工芸ミュージアム)・金沢市立中村記念美術館・金沢ふるさと偉人館の主催展覧会入場券半券を窓口で提示した方。

主 催：国立工芸館

掲載用問い合わせ先：050-5541-8600（ハローダイヤル）

工芸とデザインは、繰り返すことと繰り返せないことでできている 工芸館所蔵作品約120点でその特徴を紹介

概要

本展は「反復」と「偶然」という工芸やデザインを特徴づけるふたつの性質に注目し、国立工芸館の所蔵作品をご紹介します。展覧会です。

同じ動きの繰り返しで造形されるものや、同じ図柄を連続させたり幾何学模様を施すことは、洋の東西を問わずあらゆる工芸やデザインにみられます。たとえば、竹工や織物は「編む、織る」という反復動作が直接作品の形状や模様につながります。また、食器などでは用途の異なるものを同じかたちに揃えることで統一感が生まれ、同じかたちのパーツで構成された物品は、見る人や使う人に心地よいリズムを感じさせます。

一方で、自然素材は木目や節の具合などひとつとして同じものがなく、制作工程での火力や温湿度、力の加減や歪みといった完全にはコントロールできない偶然性も工芸の特質です。この人為を超えた作用が、作品の味わいとなることも少なくありません。あるいは、本来均質な製品の量産を目指すデザインに、あえて偶然できたような風合いをもたせることで、量産品らしからぬ存在感が備わることもあります。

反復と偶然がおりなす工芸とデザインの多様な表現の魅力をお楽しみください。

本展のポイント

■ 日常的なふたつのキーワードから、工芸とデザインの本質に迫る。

なにげなく使う「反復」と「偶然」という言葉は、じつはものをつくるうえでとても重要なキーワードです。本展ではこのふたつの言葉を手がかりにして、工芸とデザインの本質をわかりやすく紹介します。

■ 反復と偶然、それぞれがもたらす印象や効果に注目。

同じパターンの繰り返しは空間的な広がりや心地よいリズムを感じさせ、一方偶然性は人為を超えた力の繊細さや神聖さ、時には力強さや荒々しさを感じさせます。作者の意図した（時には意図を超えた）効果に注目すると、作品の新しい魅力が見つかるでしょう。

■ 工芸とデザインは何が一緒に何が違うの？その関係を考えます。

職人的な技巧を凝らした一品制作の工芸と、均一な品質の製品を量産するデザインは、一見正対のものづくりの姿勢に見えます。しかし「反復」と「偶然」という視点からながめると、そこにはある共通点や差異がみえてきます。

展示構成

1. 反復

－ 繰り返しがうみだす模様とかたち

編んだり織ったりという反復動作により造形されたものや、幾何学模様や型染など同じパターンを繰り返す作品、統一されたデザインの食器セットなどを紹介します。規則性があるものは見る人にリズムや安定感を感じさせますが、一見同じに見えるなかに見え隠れする微妙な差異など、見所がたくさんあります。



No. 3



No. 4



No. 2



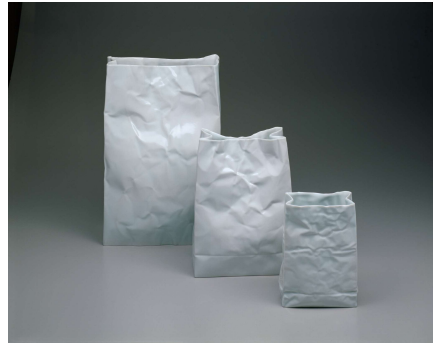
No. 7

2. 偶然 – 自然の素材と人為を超えたから

全く同じものがない自然素材の特性を活かすことで唯一無二のものとなったり、土やガラスなどかたちをもたない素材が熱や火の加減により予想できないフォルムがうまれます。それらは完全に制御ができないがゆえに作品の魅力となり、儚さや神聖さ、あるいは大胆さや力強さといった様々な印象を想起させます。

3. 反復×偶然 – 真逆の性質が融合すると…

前章まではどちらか片方の性質が強く出た作品を紹介しますが、じつは工芸やデザインはその両方の要素をうまく使い、組み合わせながらつくられています。デザインに偶然の要素を取り入れたり、規則的な模様にあえて変則的な部分をつくったりすることで、表現の幅が格段に広がってゆきます。



No.10



No.12

関連イベント

会期中に出品作家によるトークや研究員によるレクチャーなどを開催予定です。
詳細が決まりましたら当館ウェブサイトにてお知らせします。

記者発表会・内見会

12月16日(月) 午前11時30分～午後1時(受付開始 午前11時30分)

一般公開に先駆けて報道関係の皆さまのみの発表会、および内見会を行います。
参加ご希望の方は、申込書に必要事項をご記入の上、メールまたはFAXでご連絡ください。

次回展予告

2025年3月14日(金)～6月22日(日)

移転開館5周年記念 花と暮らす展

日本には春夏秋冬の四季があり、季節ごとの花や色彩を生活に取り入れ、日々の暮らしを楽しんできました。本展では国立工芸館の所蔵作品を中心に、春から夏にかけて咲いている花をテーマにした工芸・デザイン作品をご紹介します。身の回りにある花々だからこそ、それぞれの技法や個性が際立ってきます。身近な自然と工芸・デザインの関係にご注目ください。

杉浦非水《絵はがき 木瓜(ぼけ)》
1915-16年頃 国立工芸館蔵



国立工芸館
National Crafts Museum

〒920-0963 石川県金沢市出羽町3-2
<https://www.momat.go.jp/craft-museum>



アクセス バスにて JR金沢駅兼六園口(東口)より
【北鉄バス】

3番乗り場：どの系統でも乗車可、「広坂・21世紀美術館(石浦神社前)」下車徒歩7分
6番乗り場：乗車(「柳橋」行を除く)、「出羽町」下車徒歩5分
8番乗り場：どの系統でも乗車可、「広坂・21世紀美術館(しいのき迎賓館前)」下車徒歩9分

車にて

北陸自動車道金沢西ICまたは金沢森本ICから20～30分。
近隣に文化施設共用駐車場(無料)があります。

報道関係の方の
お問い合わせ先

国立工芸館 広報事務局(株式会社OHANA内)

Tel: 03-6869-7881 Fax: 03-6869-7801 E-mail: ncm@ohanapr.co.jp

広報用画像一覧



No. 1 展覧会チラシ

陶磁



No. 2 小川待子《Untitled》
1993年 国立工芸館蔵
撮影：エス・アンド・ティ フォト

染織



No. 3 重要無形文化財久留米絣
技術保持者会
《久留米絣白中柄単衣 花菱文》
1958年 国立工芸館蔵

金工



No. 4 中川衛
《象嵌銀花器「チェックと市松」》
2020年 国立工芸館蔵
撮影：野村知也

竹工



No. 5 林尚月齋《花編放射文盛器》
1947年頃 国立工芸館蔵
撮影：エス・アンド・ティ フォト

工業デザイン（磁器）



No. 6 柴木正敏《WAVE》
1986-87年 国立工芸館蔵
撮影：エス・アンド・ティ フォト

陶磁



No. 7 西村陽平《トースター》
1988年 国立工芸館蔵
撮影：アローアートワークス

ガラス



No. 8 藤田喬平《流動 流》
1967年 国立工芸館蔵
撮影：アローアートワークス

工業デザイン（磁器）



No. 9 エンツォ・マリー
《磁器のデザイン0》
1973年 国立工芸館蔵
撮影：エス・アンド・ティ フォト

工業デザイン（磁器）



No. 10 小松誠《Crinkle Series スーパー
バッグ K1、K2、K3》
1975年 国立工芸館蔵
撮影：アローアートワークス

陶磁



No. 11 清水九兵衛（洋、裕詞、七代六兵衛）
《花器》1955年 国立工芸館蔵
撮影：アローアートワークス

竹工



No. 12 飯塚環玕齋
《花籃 あんこう》
1957年 国立工芸館蔵
撮影：大屋孝雄

* 上記画像No. 1～12を広報用にご提供いたします。
ご希望の方は当館ホームページの画像提供システムよりお申し込みください。
<https://www.momat.go.jp/craft-museum/reproduction>



* 展覧会をご紹介いただける場合は、読者プレゼント用招待券（5組10枚）をご用意しております。
ご希望の方は画像申請の際に「その他」欄よりお知らせください。